

# 東京2020大会における 新型コロナウイルス感染症対策

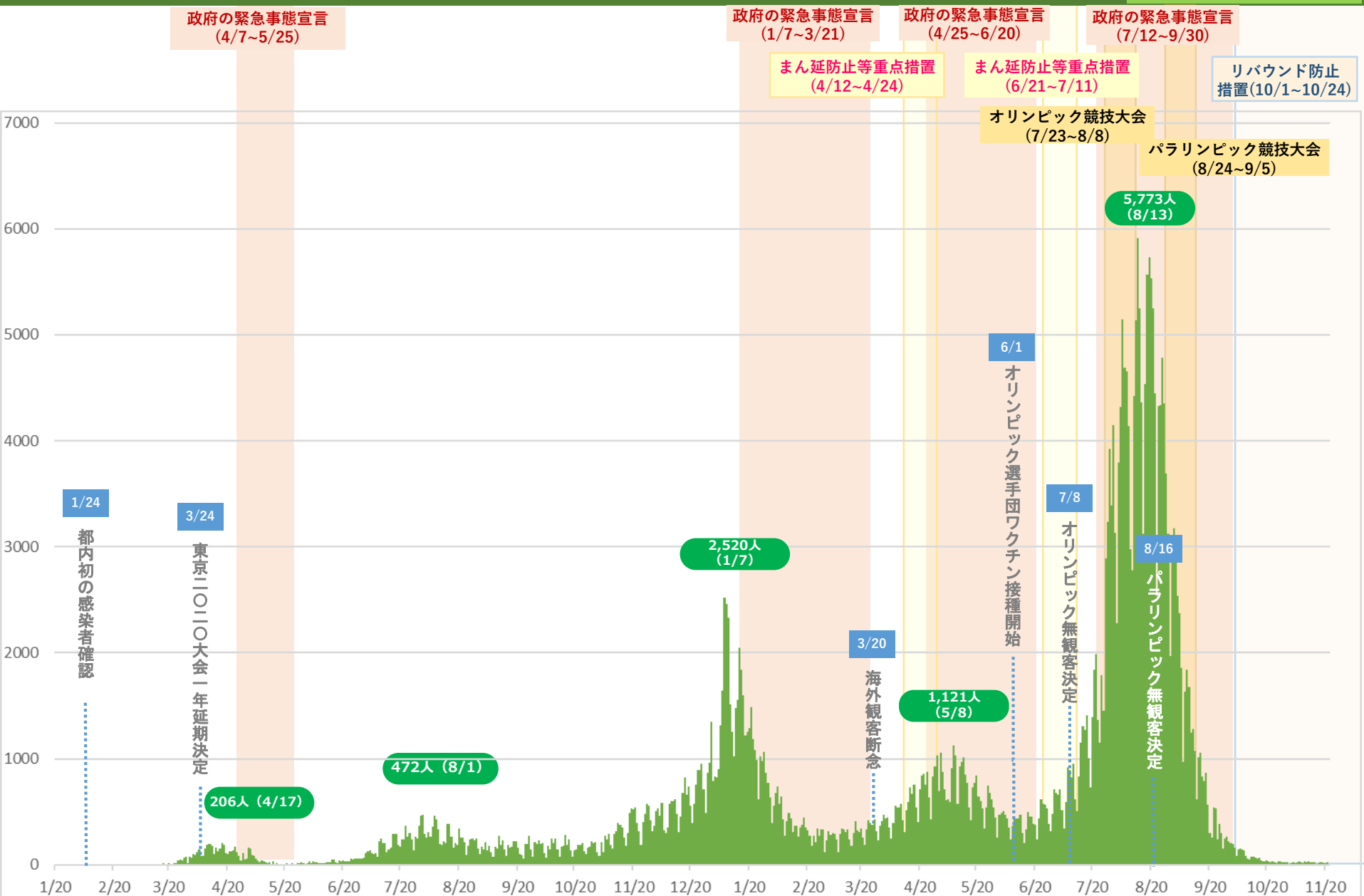


東京都福祉保健局

Bureau of Social Welfare and Public Health  
Tokyo Metropolitan Government

# 都内陽性者数の推移と対策のステージ

東京都新型コロナウイルス感染症対策本部資料より  
(一部改変)



# 感染症対策における基本的な対応 (2019年4月時点)

| 取組      | 概要                 |  | 備考  |
|---------|--------------------|--|---|
| サーベイランス | 感染症発生状況の把握         | 感染症発生に関する情報を医療機関等から常時系統的に収集して、発生の有無、状況等を監視するとともに、情報を解析し、還元する | (例)<br>・感染症発生動向調査<br>(患者・病原体サーベイランス)<br>・救急搬送サーベイランス等 |
| 病原体検査   | 対策に必要な病原体等検査       | 行政による対策実施に必要なとなる、医療機関では困難な疾患の特定や病原体の確認等の検査を行う                | (例)<br>・疫学調査において実施する疾患特定のための検査等                       |
| 疫学調査    | 原因究明や二次感染防止のための調査等 | 感染症患者発生時に、保健所が、対策に必要な情報(原因の推定、接触者の有無等)を患者等から得るための調査を行う       | ・患者やその接触者等に対する療養や二次感染防止のための「保健指導」を含む。                 |
| 医療提供    | 感染症医療の提供           | 感染症患者に対して、重症化防止・早期回復や感染拡大防止を図るために、適切な医療提供を行う                 | (例)<br>・感染症指定医療機関等における医療提供<br>・一般医療機関への診断に必要な情報の提供等・  |
| その他     | 予防やまん延防止のための各種取り組み | 感染症の予防やまん延防止のための上記以外の取組                                      | (例)<br>・都民等への普及啓発、情報発信、相談対応等                          |

# コロナ検討における経緯

| 年月日           | 項目   | 内容   |
|---------------|--|--|
| 2020年<br>9月4日 | 東京オリンピック・パラリンピック競技大会における新型コロナウイルス感染症対策調整会議                                 | 第1回を開催<br>その後、以下日程で計7回開催<br>9/4, 9/23, 10/9, 10/27, 11/12, 12/2, 2021/4/28 |
| 12月2日         | コロナ対策調整会議  | 中間整理   |
| 2021年<br>2月3日 | プレイブック第1版の公表   |  |
| 3月20日         | 五者協議   | 海外観客の日本への受入れ断念   |
| 4月28日         | プレイブック第2版の公表   |  |
| 4月30日         | 東京2020大会における新型コロナウイルス感染症対策のための専門家ラウンドテーブル                                  | 第1回を開催<br>その後、以下日程で計5回開催<br>4/30, 5/28, 6/11, 6/18, 8/20                   |
| 6月15日         | プレイブック第3版の公表   |  |
| 6月21日         | 五者協議<br>Stakeholders meeting<br>(IOC, IPC, Organising Committee, GoJ, TMG) | 観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」とすること、7月12日以降緊急事態宣言等が発動された場合は措置内容を踏まえた対応を基本とすること等を合意 |
| 7月8日          | 五者協議   | オリンピック無観客の決定   |
| 8月16日         | 四者協議   | パラリンピック無観客の決定<br>(学校連携観戦を除く)   |

第1回 コロナ対策調整会議



第1回 専門家ラウンドテーブル



プレイブック第2版公表



# 東京2020大会における新型コロナ対策

東京都新型コロナウイルス  
感染症対策本部資料より

- コロナ禍において安全・安心な大会とするため、水際対策の徹底や入国後の定期的な検査、厳格な行動・管理等の対策を実施
- 訪日アスリート、大会関係者の陽性率が低く抑えられるなど、安全・安心な大会を実現

## 選手や関係者にとっての安全・安心な環境整備

### 海外からの 入国者数の縮小

- 大会運営の簡素化とともに来日大会関係者数を延期前の計画からオリンピック時は4分の1、パラリンピック時は3分の1に縮小

### 水際対策・検査

- 入国前に2回検査
- 選手は原則毎日検査、関係者は役割に応じ定期的に検査

### 行動管理・健康管理

- 厳格な用務先の制限、行動管理、健康管理

### 基本的な感染対策

- マスクや物理的距離の確保、三密の回避といった基本的コロナ対策の徹底などにより、選手村や競技会場における感染拡大の防止

## 日本在住者との接触を最小限とし、国民の安全・安心を確保

### 移動手段

- 公共交通機関の原則不使用。移動は原則として大会専用車両

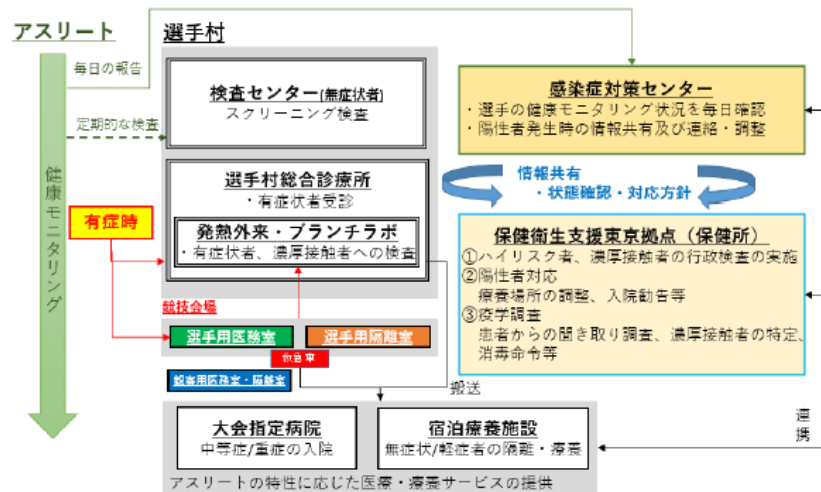
### 宿 泊

- 自己手配宿泊施設の「宿泊ガイドライン」への適合
- 満たせない場合は、組織委員会手配ホテルへ変更

# 感染症対策センター 保健衛生支援東京拠点 発熱外来

## ○計画

○アスリートが集中する選手村等において、感染症対策センター、保健衛生拠点と選手村総合診療所等が緊密に連携し、アスリートの特性に応じた医療サービスを提供



### (1)感染症対策センター (IDCC)

- 稼働期間 7月1日～9月20日
- 体制 オリパラ期間中：シフト制により24時間稼働  
それ以外：7～23時稼働  
日中：18名程度、夜間12名程度

### (2)保健衛生支援東京拠点

- 稼働期間 7月1日～9月20日
- 体制 医師1名、保健師3名、事務8名  
トレーサー6～15名(時期による)

### (3)発熱外来

- 稼働期間 7月7日～9月8日(オンコール期間含む)
- 体制 シフト制により24時間稼働  
日中：医師2名、看護師6名  
夜間：医師1名、看護師2名

## ○総括

- 3つの機能(感染症対策センター、保健衛生支援東京拠点、発熱外来)が有機的に連携することで、円滑な検査の実施と陽性者の早期特定、速やかな事態対応を実現
- 発熱外来では、感染エリアと非感染エリアのゾーニングを徹底し院内感染の防止を図るとともに、施設内で検体分析を行うことにより、検体採取から2～3時間での結果判明を実現
- IDCCでは、同室内で関係機関(IDCC、東京都、厚労省)が業務を行うことによりコミュニケーションが円滑化され、情報共有や意思決定のスピード向上に寄与

## 検査件数 陽性者数

|    | スクリーニング<br>検査件数 | 一次検査<br>陽性件数 | 陽性確定者数 |
|----|-----------------|--------------|--------|
| 総数 | 1,014,170件      | 510件         | 304人   |

一次検査陽性件数には、同一人物が複数回陽性判定になった場合を含む

| 区分                 | 検査件数   | 陽性確定者数 |
|--------------------|--------|--------|
| 有症状による<br>発熱外来受診者数 | 47件    | 2人     |
| 濃厚接触者数             | 3,428件 | 12人    |
| その他、必要な対象者(※)      | 14件    | 3人     |
| 総数                 | 3,489件 | 17人    |

※帰国時検査で陽性になった際の確定検査や、ホストタウンから移動中に陽性疑いとなったため急ぎよ実施した検査等

### 【総括】

- アスリート等/大会関係者にスクリーニング検査を実施し、1日あたり平均約14,000件（最大36,225件）の検査を実施
- 陽性者の多くが無症候性病原体保有者であり、早期の陽性者隔離に寄与したため、有症者の検査は総定数より少なく、発症前に陽性者を探知できていた可能性がある



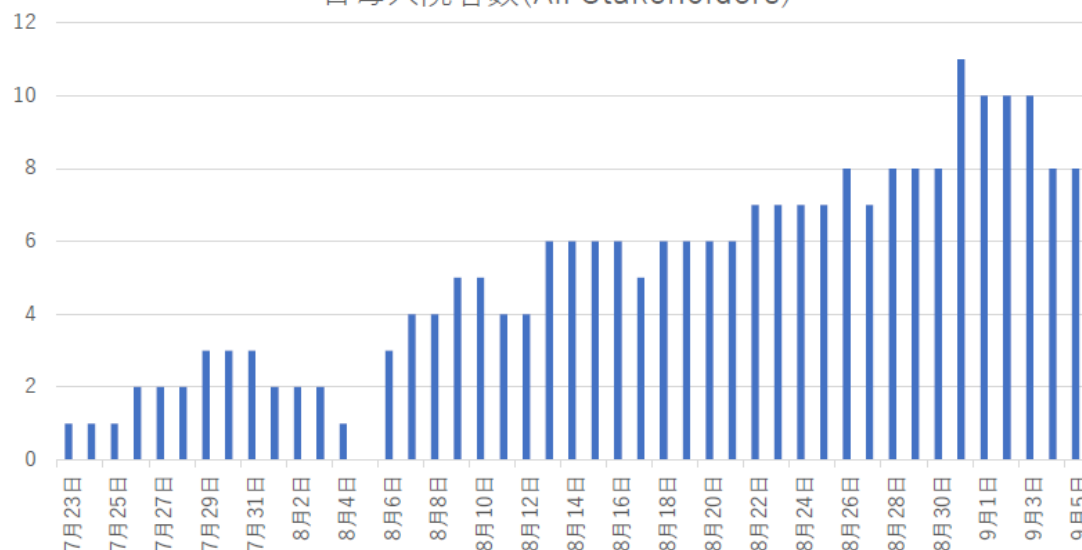
# 入院者数

## ○計画

- コロナ陽性者のうちで、入院加療が必要な大会関係者については、大会指定病院や保健部局の指定する医療機関などと調整を行い、適切な医療機関へ入院
- 療養施設との連携を図り、地域の影響を最小限にとどめるよう配慮

## ○実績 (速報値)

日毎入院者数(All Stakeholders)



## ○総括

- 大会関係者の入院者数は低く抑えることができたが、期間後半では日本人スタッフの入院者数が増加する傾向がみられた。



## 陽性者対応（宿泊療養施設の運営）

### ○計画

#### ■対象者

選手等のうち、軽症又は無症状の者

#### ■運営期間

7月13日～9月17日

#### ■運営

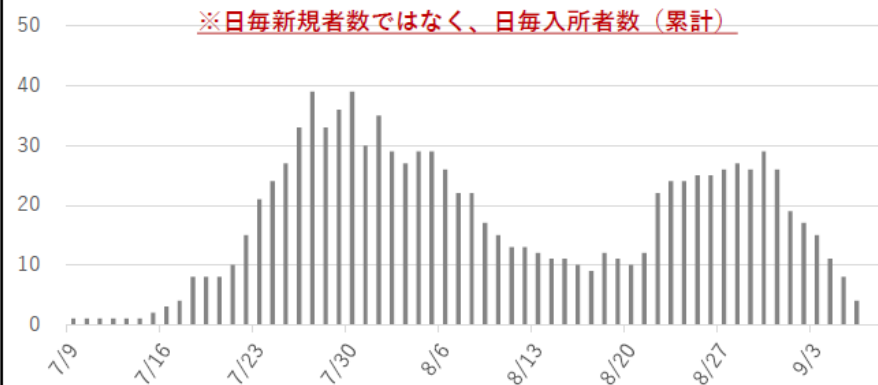
療養施設の運営は東京都の運用基準に準拠

- ゾーニングによる立入りエリアの厳格化
- 原則10日間の療養期間
- 医師又は看護師による健康確認の実施
- 看護師及び事務職による24時間体制

### ○実績（速報値）

#### アスリート等用宿泊療養施設入所者数

※日毎新規者数ではなく、日毎入所者数（累計）



- 実際の運営は7月9日～9月8日
- 入所者数は142名（オリ期89名、パラ期53名）
- 療養期間中の入院対応は1名のみ

### ○総括

- IOC/IPCからオリンピック20名、パラリンピック6名（重複含む）の医療スタッフの応援
- 運営開始予定日より前に陽性者の受入れを開始することとなったが、食事やリネンの準備など緊急購入により対応することで、適切に受け入れを実施
- パラリンピック期間は、急遽、介助が必要な陽性者の受入れを行うことが決定し、マンパワーの不足や必要な施設・設備の不足が課題となったが、適切に対応（詳細は後述）。

# プレイブック

- IOC、IPCとともに、専門家の意見を踏まえ、東京2020大会において参加者が遵守すべきコロナ対策上のルールを取りまとめたプレイブックを関係者毎に作成、公表。
  - 第一版：2021年2月公表（2/3～3/16）  
2020年12月の新型コロナウイルス感染症対策調整会議の中間整理を基に、WHOや第三者の専門家・機関からの助言、世界の国際的なスポーツイベントからの学びを参考に、行程ごとに行うべき基本原則や、枠組みを記載。
  - 第二版：4月公表（4/28～5/10）  
第一版をより詳細化。特に、選手・関係者の検査頻度（原則毎日検査等）やCLOの役割等の詳細を記載。
  - 第三版：6月公表（6/15～6/22）  
行動管理ルールを強化、検査頻度・プロセスを具体化、ルール違反に対する制裁措置を明確化。また、出国前に必要な陰性証明の要件等、プレイブック第二版以降の課題に対応。
- 各関係者とのコミュニケーション  
各組織と個別のコミュニケーションのほか、プレイブック更新の都度、各関係者に対し説明会を開催し、必要情報を共有、説明。大会の安全安心・ルールの遵守に向けた理解を形成した。



# 検査頻度

| 場所  | レベル | 特徴   | 対象  | 検査頻度 |
|-----|-----|--|---|------|
| 東京  | 1A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>選手村に滞在するアスリート</li> <li>選手村内の他の居住者<br/>(大会運営における重要な役割やアスリートと密接に関わるため)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>選手村の居住者</li> <li>アスリート</li> <li>チーム役員</li> <li>他のNOC/NPCアクレディテーション保有者</li> </ul>   | 毎日   |
| 東京  | 1B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>選手村に滞在していないアスリートやチーム役員</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>選手村に滞在しないが東京に居住するアスリート</li> <li>選手村には滞在しないが東京に居住するチーム役員</li> <li>他のNOC/NPCアクレディテーション保有者</li> </ul>   | 毎日   |
| 地方  | 1C  | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京に滞在していないアスリート及びチーム役員</li> </ul>   | 地方会場に滞在する者 <ul style="list-style-type: none"> <li>アスリート</li> <li>チーム役員</li> <li>他のNOC/NPCアクレディテーション保有者</li> </ul>   | 毎日   |
| ALL | 1D  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にあスリートと接触または密接に関わる参加者</li> <li>大会運営に必要なコア参加者</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>IF代表、国際テクニカルオフィシャル、審判、ジュリーメンバー、国内テクニカルオフィシャル、エキップメント技術者、IF理事、IF理事長及び事務総長、IFフルタイムシニアスタッフ、IFスタッフ、IFメディカルオフィサー、トランスファラブルゲスト、メディア責任者</li> <li>FOPブロードキャスターやフォトグラファー</li> </ul> | 毎日   |
| ALL | 1E  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的にあスリートと接触または密接に関わる参加者</li> <li>大会運営に必要なコア参加者</li> </ul>                      | スポーツボランティアの一部 <ul style="list-style-type: none"> <li>一部のFOPおよびOLVサポート・サービススタッフ(例：タイムキーパー、リザルトマネージャー、隔離・検疫施設等のメディカルスタッフ)</li> </ul>  | 毎日   |
| ALL | 2A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>レベル1の参加者と接触する可能性のある参加者<br/>(特に、アスリートとの接触がある参加者)</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>その他ブロードキャスト・プレス</li> <li>オリンピック・パラリンピックファミリー</li> <li>マーケティングパートナー</li> </ul>  | 4日ごと |
| ALL | 2B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>レベル1の参加者と接触する可能性のある参加者<br/>特に、アスリートとの接触がある参加者)</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>その他のスポーツボランティア</li> <li>その他のサポートサービススタッフ</li> </ul>  | 4日ごと |
| ALL | 3   | <ul style="list-style-type: none"> <li>レベル1の参加者との接触が限定的または接触がない参加者</li> <li>海外からのステークホルダーと接触の可能性のある者</li> </ul>        |   | 7日ごと |
| ALL | 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>その他の大会参加者</li> </ul>  |   | 検査なし |

## 濃厚接触者対応

濃厚接触となったアスリート等の練習や競技に参加するための具体的な条件について、国、東京都、組織委員会、IOC/IPC等の間で協議し、以下のとおり定め、運用した。

### 練習や競技参加等に必要な主な対策

- ✓ 毎日鼻咽頭PCR検査（原則）を行い陰性である
- ✓ 個室で滞在・宿泊する
- ✓ 食事は自室で一人とする
- ✓ 移動は個別車両での移動とする（専用輸送車両、航空会社の協力）
- ✓ 濃厚接触者は練習や試合を除き外出を禁止する  
練習会場、試合会場における他者との物理的な距離を確保する  
→組織委員会職員の同行による監督を実施

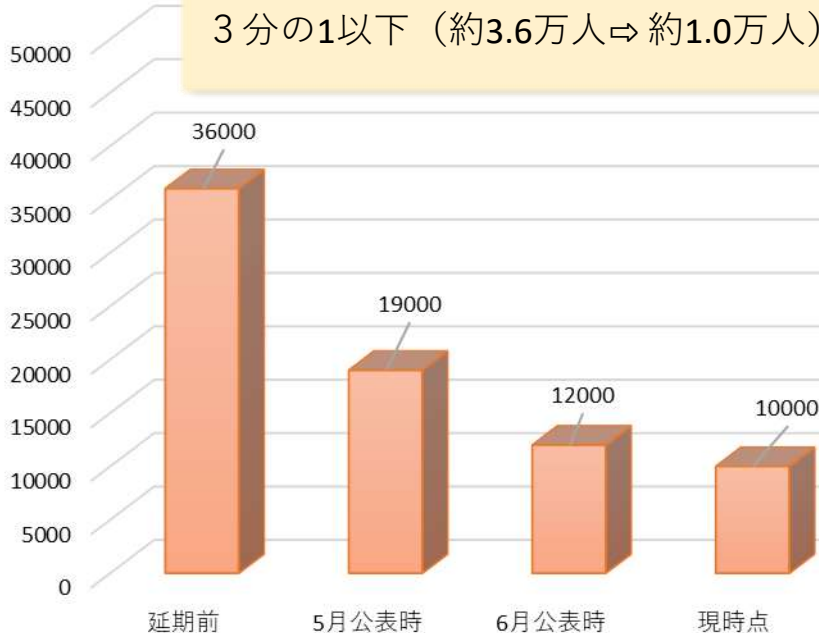
# 海外から来日したオリンピック関係者数：オリンピック大会時

## オリンピック



簡素化や海外観客の受入れ断念、  
その後の大会関係者縮減要請

## パラリンピック



※アスリート・一般観客を除く  
※推計値



## 大会中に生じた課題と対応

スクリーニング検査  
キットの  
不足・過剰配布

キットのメール発注の仕組み開発  
検査センター運営時間延長  
オーナーFAによるキットの配布回収  
各会場回収場所の早期開設および新設

障害をもつ  
アスリート等の移送

MED搬送車が車椅子非対応のため、看護師が同乗  
陽性者の障がいの程度や介助の必要性の評価  
福祉車両を有し陽性者搬送可能な交通事業者を確保

想定以上の介助を要  
する陽性者が  
療養施設に入所

IDCC内の看護師を療養施設へ再配置  
設備の追加手配  
現場スタッフの工夫による環境改善